

乳製品需給等情報交換会議概要

日時：平成 29 年 10 月 31 日（火）13:30～14:30

場所：（独）農畜産業振興機構 北館 6 階会議

主な意見：

（中央酪農会議）

北海道の生産は回復してきており、今後も増加する見込み。また、都府県については減少傾向であるが、関東および東北が前年度を若干下回る程度で頑張っている状況。

（日本乳業協会）

12 月の最需要期に向けて、3 年前より、ポンドバターについて、冷蔵から冷凍に切り替えて流通させる取り組みを行っている。現在、ポンドバターについては、必要な在庫量を満たしている状況である。家庭用バターの見通しについて、主要各社に聞き取りを行ったところ、対前年よりも若干増加させる見通しであるので、例年の需要であれば、需給の混乱は起きないと思う。

（J ミルク）

9 月以降は、北海道、西日本、東日本ともに涼しかったため、先月公表した我々の見通しに比べて、生乳生産量が多い状況である。また、用途別の仕向け量については、若干ではあるが、乳製品向けが増えている。

（卸売業者）

家庭用バターについては、市況は落ち着いている。業務用バターについても、大きな変化はない。国産のバター・脱脂粉乳については、需要に応じた供給に専念したい。国際的な乳製品の需給動向についても注視していきたい。

（全国菓子工業組合連合会、日本パン工業会）

バターが足りないという話題は聞こえてこないので、心配はしていない。

（全国洋菓子工業会）

バターが足りないという話題や声はないので、心配はしていない。個人経営の洋菓子店にも問い合わせたが、バターが足りないということはない。

（全国消費者団体連絡会）

今日の会議に出席して、バターの需要が増えていく時期を安心して迎えられることを確かめた。また、今後とも消費者のもとには正確な情報が届くよう、お願いしたい。

（以 上）